

令和2年度 ユネスコスクール NISHITA 校内研通信 No.2
5年生研究授業 社会科「これからの食料生産とわたしたち」5-2

◆本時について

評価規準

・食料自給率と食生活の変化に伴う輸入量の変化について、資料から課題をみつけることができる。

○なぜ教えるか：これからの食料生産について危機感をもち、問題を解決するために、自分にできることを考え、行動してほしいから。

○どのように教えるか：児童が実感をもてるような資料提示の工夫

○どのような力を育てたいのか：

- ①資料を活用して、これからの食料生産の課題を捉え、問題解決に向けて取り組む力（主体性）
- ②自分の食生活に対する考えや消費行動についてグラフや表を用いて表現する力（表現力）
- ③食料生産や食生活に対する考えをもち、消費者として行動する力（社会参画）

◆協議会での意見 授業を振り返る視点

「教師が食糧自給についての問題を自分事として捉えられるような資料提示をすることで、児童は多様な視点で疑問をもつことができたか。」

大人も難しい課題。問題意識をもって生活していこうというきっかけになると同時に、答えにたどり着かない場合の対応はどうするのだろうと感じた。／「100年後の自分が住む未来」を考えることから、改めて今の自分が住む周りに目を向けるといふ視点が生まれると思う。／児童がいろいろ自分の課題について調べることを無理やり集約して次につなげるのではなく、調べることで次に学習する「食の安全」や「地産地消」との関連をより感じてほしい。／学習後、「消費者として自分がどんな行動をするのか」につなげたい。また、「人の動き」に注目している課題ももたせたい。（貿易相手国の農家や流通にかかわる人など）／「自分ごと」と捉えるのにグラフだけでない白抜き絵の使い方は視覚効果抜群だった。先に白抜き絵を見せてから「自給率」という意味を伝え、「ではグラフを見てみよう」という流れで教えることもできると思う。／グラフを読めない児童もいることから、見方を伝えて丁寧に読み取らせて、情報を取り出し話す方がよい。／資料が多く、視点が広がりすぎないか。値段で盛り上がると課題がモノの値段に行きがちになりそうなので、最後に「はじめのグラフに戻って、自給率を考えてみよう。」と組み立てると良いのでは。

◆本研究授業を振り返って—研究主任より—

社会科分科会の先生方のご提案により、活発な議論がなされた協議会でした。本時に関して、社会科と総合の内容がたぐさんの場面で交差する内容だったと考えます。社会科の授業でありながら、教科や学年を超えた問いが生み出される、またそうしなければ解決できない問い(永続的な問い)を子供たち自身が生み出すことができた授業であると考えます。一方で、教科教育、今回は社会科に関して、教科の本質的な内容は、しっかり教科として踏まえる必要があることが確認できました。「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成する」という社会科の目標の達成のために「グラフの見方や読み取らせ方」の理解は必要不可欠である。ゆえに、この場面でしっかりと教えることが必要である、ということです。「教科の学びを超える授業は、教師の工夫と、教科の本質をとらえる指導で実現する」と言えるのではないのでしょうか。ぜひ、今回の社会科分科会のご提案を日々の授業実践で、ご自身で検証していただければと考えます。ちなみに、カナダが2005年ごろから食料自給率が上昇している理由を私も調べてみましたが、「健康志向の増加による、世界的なキャノーラ油の需要増」との結論に至りましたが…。永続的に問い続けてみます。